

# 第23回 腫瘍病理セミナー

(北陸がんプロFD 講演会)

## Src シグナルの制御破綻とがん進展

愛知県がんセンター研究所  
感染腫瘍学部 部長  
小根山 千歳

小根山博士は、細胞の恒常性維持を担うシグナルネットワーク異常としてのがんという観点から、その鍵因子の一つである Src ファミリーチロシンキナーゼの研究に取り組んできました。その過程で、細胞膜マイクロドメインである脂質ラフトに、シグナル分子の局在制御を介してがん形質を抑制する役割があることを解明しました。また、リン酸化によるシグナル伝達経路の陰に、複数の microRNA が協調してシグナル分子の発現を制御する隠れたネットワークが存在し、その異常とがん形質に深く関与していることを見出しました。本セミナーではこれらの知見に加え、現在取り組んでいる Src シグナルの制御破綻において分泌膜小胞エクソソームが担う役割についての研究を紹介します。



1993年大阪大学理学部化学科卒業、同大学大学院理学研究科博士前期課程修了後、製薬企業にて抗がん剤開発の基礎研究に従事。2003年大阪大学にて博士号（医学）取得。2003年大阪バイオサイエンス研究所特別研究員（花房秀三郎研究室）、2005年大阪大学微生物病研究所で助教、准教授を経て2015年より現職。

Fer tyrosine kinase oligomer mediates and amplifies Src-induced tumor progression.

Oncogene, 35(4): 501-512, 2016

MicroRNA-mediated downregulation of mTOR/FGFR3 controls tumor growth induced by Src-related oncogenic pathways.

Oncogene, 30(32): 3489-3501, 2011

The lipid raft-anchored adaptor protein Cbp controls the oncogenic potential of c-Src.

Mol Cell, 30(4), 426-36, 2008

日時：平成29年2月24日（金）17時半から 金沢医科大学医学教育棟5階 中会議室